

# 昭和橋お絵かき大会

## 明和パソコンクラブ開催

明和パソコンクラブ(群馬県明和町、野本健治代表)は23日、施工中の国道122号線昭和橋2期線の群馬県側歩道部において、お絵かき大会を開催した。

同クラブが明和町の元気な里づくり支援事業に応募し、「私達の未来の街」をテーマにした地上画を描く大会として企画された。お絵かきを通じて社会資本の重要性を理解してもらおうことが目的。施工を担当している小川工業㈱(本社)行田市、小川貢三郎代表取締

役)や行田県土整備事務所、群馬県館林土木事務所、明和町との調整を図り、ようやく実現に至った。

大会には明和町在住の小学生とその家族ら約50人が参加した。1グループ(家族)に割り当てられたキャンパスは縦2・3m、横3・7m。さまざまな色のチョークが用意され、参加者は思い思いの絵を炎天のもと、約1時間かけて書き上げた。出来栄は審査員の投票で評価され、上位3グループが表彰され、記念

品が贈呈された。

表彰式で明和町生涯学習課の落合康秀氏は「暑い中とても上手に書いていて驚きました。皆さんの書いた絵は約100年残ります。いい思い出として色々な人にお話して下さい」とねぎらいの言葉をかけた。また行田県土整備事務所道路部の下総憲一担当課長は「こうした橋や道路の整備は身近すぎて、その重要性を忘れがちになっていきます。皆さんがこの道を通るたびに今日の事を思い出していただけると嬉しいです」と話した。



暑い中一生懸命に絵を描く参加者たち

なにも自慢したい」「緑深い風景を描いた。自然がこれからも昭和橋の周りに多く残ってほしい」と感想を語ってくれた。